

平成30年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 国際コミュニケーション学部

カナダ トダ ユキコ
氏名 戸田 由紀子

研究期間 平成30年度

研究課題名 Tan Twan Eng の作品が描き出す日本の占領と戦争の記憶

研究組織

| | 氏名 | 学部 | 職位 |
|-------|--------|---------------|----|
| 研究代表者 | 戸田 由紀子 | 国際コミュニケーション学部 | 教授 |
| 研究分担者 | | | |
| 研究分担者 | | | |

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

近年英語圏文学において日本の占領と戦争の記憶に焦点を当てた作品が増えている。しかしこれまでほとんど焦点が当てられてこなかった。そこで本研究では Tan Twan Eng の作品を含めた 21 世紀転換期以降の英語圏文学作品を比較考察し、日本の占領とそれが引き起こした影響がどのように描かれているかを明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

- 1) 日本の占領とアジア太平洋戦争に焦点を当てている日本やイギリスも含めた現代文学作品のレビュー。
- 2) その上で、現代カナダ文学において日本の占領と戦争との関わりがどのように描かれているかを考察する。具体的に取り上げた作品は Kazuo Ishiguro の *The Buried Giant*、Madeleine Thien の *Certainty*、Joy Kogawa の *Obasan*、Kerri Sakamoto の *One Hundred Million Hearts*、Hiromi Goto の *Chorus of Mushrooms* である。
- 3) また、上記の作品と比較分析しながら、Tan Twan Eng の *The Gift of Rain* と *The Garden of Evening Mist* が描き出す日本の占領と戦争の記憶についての考察を行う。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

本研究ではこれまで注目されてこなかった日本の占領とアジア太平洋戦争に焦点を当てた英語圏文学作品の動向を把握することができた。その多くは、日本と戦争について書く責任があると感じている Kazuo Ishiguro や Joy Kogawa などの日系作家、またはマレーシアなど戦時中日本の被害にあった国の出身である Madeleine Thien や Tan Twan Eng のような作家である。

本研究ではまず日本の第二次世界大戦を描いたカナダの作品に焦点を絞り、Joy Kogawa、Hiromi Goto、Madeleine Thien、そして Kerri Sakamoto の作品を考察した。その結果、第二次世界大戦時日系カナダ人強制収容に対するカナダ政府の正式謝罪がなされた 1988 年以前の作品群と、それ以降の作品群には、日本の戦争との関わり方の描かれ方に違いがみられることがわかった。日系カナダ人は危険な敵国民ではなく「模範的な市民」として強調する必要があったリドレス以前の作品においては、日系カナダ人は不当に強制収容された被害者として描かれている。そのため当然ながら、他国を占領した加害者としての日本を描くことはなく、原爆の被害者として広島や長崎が強調されて描かれている。一方リドレス後の作品群においては、加害者としての日本の戦争との関わりが、グローバルな視点から描かれている。

また上記の結果を踏まえた上で、日本の占領の被害者側の立場から描いたマレーシア作家 Tan Twan Eng の *The Gift of Rain* と *The Garden of Evening Mist* が描出する日本の占領と戦争の記憶について考察した。Eng の作品は、グローバルな視点で描かれている点は同じであるものの、日本のマレーシア侵略と占領を一方的に責めることはない。合気道や園芸のなど日本の伝統文化に傾倒するマレーシア人主人公たちが、戦争によって日本人師匠との関係が複雑な形で分断され、両者の狭間で苦しむ様子に焦点が当てられている。

研究成果は“Japan and War Depicted in Canadian Literature”と題して7月にジョグジャカルタで開催された Sixth International Conference on Asian Studies で発表し、満州と日本の関係について発表した参加者なども含めた他の発表者と日本のアジアの関係について議論することができた。また発表した原稿は、加筆訂正し、“The Japanese Occupation of Southeast Asia and the Asia-Pacific War Depicted in Post-Redress Canadian Fiction”として『梶山女学園大学研究論集』49号に掲載した。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

| | | | |
|---------------|--------------|-----------------|-------------------|
| ①Tan Twan Eng | ②戦争の記憶 | ③Kerri Sakamoto | ④ Madeleine Thien |
| ⑤ Hiromi Goto | ⑥ Joy Kogawa | ⑦ 東南アジア | ⑧ |

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

<口頭発表>

"Japan and War Depicted in Canadian Literature" Sixth International Conference on Asian Studies, Yogyakarta (Indonesia), July 16-17, 2018.

<発表論文>

“The Japanese Occupation of Southeast Asia and the Asia-Pacific War Depicted in Post-Redress Canadian Fiction” 『梶山女学園大学研究論集』49号、pp1-11.